

とみちゃんの 協働通信 Vol.5

～講座を通して、とみちゃんが協働を学びます～

第5回協働のまちづくり講座 「安心・安全と市民協働」

2月26日開催
参加者112名!

発行・問合せ
市民活動推進課
93-1117



第5回目のテーマは「安心・安全と市民協働（地域で活動している防災関係団体の現状と課題）」ということで、消防本部消防総務課の齋藤さんと消防団副団長の大澤さん・相川さん、それから市民活動推進課の島田さんと日吉台小学校区防災連合会会長の金子さん・副会長の栗飯原さんにそれぞれ取り組みを発表していただいて、参加者の皆で意見交換をしたよ。僕たちが安心・安全に暮らせるように、陰で支えてくれている人たちには頭が下がるね。どんな取り組みをしてるんだろう。

今回の講座は、(1) 古くから地域で活動している消防団の取り組みと(2) 近年発生している大規模災害に対し、地域住民が連携して防災・減災を目指す自主防災組織の取り組みについての内容だったけど、組織は違っても目指すところは市民の安心・安全、既存の組織と新たな組織の連携が地域防災力向上のキギだね。初めて聞く人もいるだろうから、それぞれどんな組織なのかおさらいしよう。



<消防団って?>

本業を持ちながらも、「自らの地域は自らで守りたい」という思いを持った市民で組織された非常勤の消防機関。火災時の初期消火・残火処理のほか、大規模災害時には住民の救助・避難誘導や広報（大津波警報を伝えるなど）活動などを行う。団員の身分は非常勤の公務員。常勤の消防本部（消防署）と連携して消防活動にあたる。



【出初式にて整列する消防団員】

<自主防災組織って?>

地域で連携し防災活動に取り組む組織。特に大規模災害により行政の救助が期待できない事態に備え、地域住民が連携し地域の被害を最小限に抑えることが目的。災害への備えとして防災意識の普及啓発・防災訓練を実施し、災害時には住民の救助・避難誘導や避難所の運営などを行う。



【防災訓練実施に向けた会議の様子】



消防団は本業の消防士ではなくて、有志の地域住民たちで成り立っているんだね。平成23年3月11日に発生した東日本大震災の時は、被災地では消防団や自主防災組織の活躍によって多くの命が救われた一方で、住民の避難指導・救助活動中に亡くなられた消防団員も多数いたんだ・・・犠牲者を出さないためにも、自分の命を守るためにも、日ごろから地域住民が災害への備えを万全にしておくことが大切だね。

(1)消防団について

<消防団の組織>

市内には地域ごとに分団が存在（第一分団～第十九分団）し、近場の分団と連合を組織（第一連合分団～第六連合分団）し、各分団協力しながら消防活動などを行っている。

<消防団の取り組み>

①火災出動

火災や災害が発生した時は、消防本部から指令を受け、各分団の消防機庫に配置されている消防ポンプ車などを駆出し、最も早く現場に駆けつけ、消防署と協力して消火活動・人命救助・避難指導などを行っている。

②平常時の活動

・各種訓練

→連絡を受けてから指定された場所に速やかに集る招集訓練や隊列訓練・救命講習など日頃から行い、災害時に素早く行動できるように訓練している。

・警戒活動

→強風時に火災予防啓発をする警戒活動・歳末警戒、春と秋の火災予防運動などで火災予防への意識を高める。

・消防操法大会

→消防ポンプ車・小型ポンプの操作の正確さ、速さなどを競い、消防技術の向上を図る。

・消防出初式

→出初式の起原は、江戸時代に発生した明暦の大火（1657年）からの復讐にあたる人々を、火消し（消防士）たちが年始に隊列を組んで「出初」を行い、氣勢を上げ人々に希望を与えたことから始まり、それ以降毎年まで受け継がれている。

<消防団の課題>

団員の減少（被雇用比率の上昇）

- 自営業者や農業者の団員が減少し、会社に勤務する団員の比率が高くなっているため、雇用者は火災時などに出勤しづらい。
- 対策として、市消防では「消防団協力事務所表示制度」を導入したりしているが、企業側は理解ができていても運用が難しいのが現状。

<消防団活動を通して感じる思い>

- ・火災現場でいち早く駆けつけ、消火活動にあたり、地域の方からねぎらいや感謝の言葉を言われると消防団員として活動してよかったと心が報われる。
- ・「自分さえよければよい」という考えの人が増えているが、地域が災力を向上させるためには、個人や地域の力を持ち寄り、横の連携を強化することが大切。
- ・消防団員は、地域では消防活動以外でも様々な役割が付いてまわる。
- 「あの人は好きでやってるんだから」などと言われることも多いが、「地域のために自分がやらなければならない、地域の力になりたい」という思いから活動しているということを知ってほしい。



(2) 自主防災組織について

〈地域防災計画における位置づけ〉

地域防災計画とは、市域の防災に関する業務対策などを定めた総合的な計画であり、震災編・風水害編・大規模事故編などで構成され、震災編において自主防災組織の役割について以下のように記されている。

- ① 防災組織の編成及び任務分担の確認対策屋に関すること
- ② 情報の収集伝達に関すること
- ③ 避難誘導、救出救護、避難所の運営に関すること
- ④ 被災者に対する炊き出し、救済物資配布等の協力に関すること
- ⑤ 県、市が行う被害状況調査等の災害対策への協力に関すること

震災直後は、行政の支援（公助）が期待できないこともあるため、地域住民の連携（共助）に基づいた自主防災組織の位置づけは極めて重要であるといえる。そのため、市では小学校区を一つの単位とした自主防災組織を、すべての小学校区で結成されるよう、支援している。

〈日吉台小学校区防災連合会の取り組み〉

① 防災連合会結成の経緯

元々自治会連合での防災協力はあったが、東日本大震災を契機に、災害から地域を守るためには日頃からの防災意識と地域のつながりが重要であると実感し、平成23年5月に日吉台小学校区防災連合会を結成した。

日吉台には消防署北分署があるため、消防団が存在しなかったが、小学校区の自主防災組織を結成したことで、消防団第一分団（日吉倉・日吉倉新田）とつながりができた。

② 防災連合会の組織

防災連合会の円滑な運営・目的達成のために運営委員会を組織し、運営委員会は役員会と防災マニュアル班・防災マップ班・避難所体制班・イベント班・防災倉庫班の5つの小委員会からなり、それぞれ任務を分担して取り組んでいる。ただし、防災訓練のように全員が関わるものについては協力体制で取り組む。

③ 総合防災訓練

日吉台小学校区防災連合会が主催し、市・消防関係者・自衛隊・警察などの協力を得て平成24年10月7日に実施。徒歩避難訓練、名簿作成訓練、炊き出し、配給訓練、防災倉庫の説明など内容は多岐にわたり、当日は1,200人を超える地域の皆さんが参加した。



総合
防災訓練の
様子



日吉台小学校区 10/7
総合防災訓練
主催 日吉台小学校区防災連合会
日頃の備えが、
あなたを救う
地域みんなで参加しましょう
日程 平成24年10月7日(日)
訓練開始 午前8時・開会式 午前9時・講義会午後1時
会場 日吉台小学校



<参加者からの質問>

Q. 第一小学校区の協議会でも防災訓練を行っているが、小学校区の防災訓練は市内何カ所の地区で行っているか。また、その内容は（第一小学校PTA 女性）。

A. 日吉台、第一、根木名の3つの小学校区で実施した。七栄小学校区では現在実施検討中。日吉台小学校区は前述のとおりで、第一小学校区では体育館に宿泊での避難所運営訓練を地域・小学校・PTAなど第一小学校区協議会で実施、根木名小学校区では自治会の皆さんで実施した。

Q. 災害時要援護者支援プランについて触れられなかったが、要援護者への支援や情報の提供について今後市や民生委員はどのように連携し、対応していくのか教えてほしい。（民生委員 男性）

A. 現在、災害時要援護者の登録を手挙げ方式（自己申告）にて募ったところで、今後も検討していく。

Q. 火災時に市民でも消火栓を使用できるか。市民の役割をどのように整理するか（市民活動団体 男性）。

A. 地域の防災訓練のメニューに消火栓の取り扱いやAEDの使用法・救急救命訓練なども入れてもらい、災害時に市民にもできることを市民と消防で共に訓練をして地域防災力の向上を図ればと思う。

Q. 市民にこれだけはしないでほしいということがあれば教えてほしい（市民活動団体 男性）。

A. 消火栓・防火水槽の上や分団機庫前に駐車することは、活動の妨げとなるので絶対にしないでほしい。

<参加者からの意見・提案>

①火災があった時に、市民には路上駐車を見つけても強制的に移動させる権限がないため、自治会に対し権限を与えてはどうか。（市民活動団体 男性）。

②東日本震災の時に、半袖で体育をしていた児童たちが建物倒壊の恐れから上着を取りに行けず、寒そうだった。市民が校舎に入っていくことは断られてしまったため、代替案として子ども達のためにもプールの更衣室などを着替え場所にしてはどうか（市民活動団体 男性）。

→防災倉庫に毛布を備蓄してあるため、今後お活用できる。

消防団と自主防災組織がどのような取り組みをしているかわかったかな。

昨今は仕事と消防団活動の両立が難しくなっていて、その上消防団の他に地域での役割があるというのは負担が大きいのではないかな。市民がどれだけ消防団の活動を理解するか、消防団に任せてばかりでもいいのか、自分たちができることを考えていかなければならぬ。

消防の縦の指揮命令系統は明確だけど、今後お消防団も自主防災組織もどれだけ地域での横の連携が取れるかが課題となってくるね。震災時に誰が何をやるかは計画通りにはいかず、日頃からの横のつながりが想定外をカバーすることができると思う。「どこどこが担当することになっているはず」という無責任な認識ではなく、皆で力を合わせて防災活動に取り組まなければならぬ。

また、行政と市民の役割分担も大事だけれど、公私の線引きをしすぎると臨機応変に動けなくなってしまうから、お互いをカバーできるようなルールがあるとよいね。



3/19 18:30 ~ 20:30
中央公民館4階大会議室
おけるネットワーク
第6回協働のまちづくり講座（最終回）
テーマ「協働を推進するための地域に」



さて、次回のお知らせだけれど、次回で協働のまちづくり講座も最終回！皆協働についてだいぶ詳しくなったんじゃないかな。次回は今までの総まとめの他、講座4回以上参加の受講者への修了証授与式と参加者交流会を行うよ。ぜひ参加してね！